

生態系の機能 過去50年の傾向と、金銭換算した事例

傾向はミレニアム生態系評価、金銭事例はTEEBに掲載された研究から。金銭は1ドル=80円で円換算

傾向が向上 ↑ 傾向が劣化 ↓ 向上と劣化が混在 ↓↑

資源の供給		事例
農作物、養殖漁	↑	■ カメルーンの熱帯林(1ドル当たり、年) 材木…4万4800円 まき…4880円
野生食物、捕獲漁	↓	他の林産品…3280~5600円
淡水	↓	
材木、繊維	↓↑	■ ハワイ・コオラウ流域の自然(4万ドル) 地下水の涵養(かんよう) …1136億~2104億円
医薬品の原料	↓	
調整や浄化		■ カメルーンの熱帯林 (1ドル当たり、年)
大気の調整	↓	気候調節…6万7360~18万1200円
水の浄化	↓	洪水防止…1920円
防災	↓	■ スリランカ・コロンボ近郊の湿地 (約3千ドル、年)
花粉の媒介	↓	洪水防止…約4億円 家庭排水の浄化…約360万円
文化や娯楽		■ ハワイ諸島沖のサンゴ礁(16万6千ドル、年)
宗教的価値	↓	娯楽…約240億円 漁…2億円 近くに住むことで得られる快適さ…32億円
美的価値	↓	■ 米ニューヨーク・ペコニック河口域(年)
娯楽、観光	↓↑	釣り…18億9600万円 動物観察…21億8400万円

生態系をお金にすると

生態系には食糧や資源の供給だけでなく、水の浄化や安らぎなど市場価格には表れにくい機能もある。

95カ国・1360人の専門家が2005年にまとめたミレニアム生態系評価によると、生態系機能の24項目のうち野生食材の供給、大気の調整、防災など15項目が過去50年で劣化し、農作物、家畜の供給など4項目が向上。川や湖からの取水量を倍増し、森を耕地にして食糧を増産した代償として、自然の多様な機能が低下した。食糧や鉱工業など特定の価値だけに目を奪われると、取り返しのつかない損失を招きかねない。

10年に公表された国連報告書「生態系と生物多様性の経済学」(TEEB)では、生態系の価値を金銭に表した事例が集められた。ウガンダでは、湿地が排水を浄化する機能が年間100万~175万ドルに相当すると評価され、干拓より利益が大きいとして開発が中止された。金銭価値への置き換えは「グリーン経済」を探る一つの手がかりになる。(平井良和)